

学長団交要求 = ④導入自己批判、管理札付全面公開!

11.11 全学統一ストライキ に決起せよ!

□ 11.11 全学統一ストに呼応し、文学部ストで起せ!

文学部においてほかに、中口学、口史3回生が大学当局、文部教授会に対して、④導入自己批判、⑤常駐体制即時解除、管理札付の全面公開の3つのスローガンを掲げて無期限ストライキに突入しているし、独文、仏文においては、授業札付の公表を貫徹している。そして文教授会はこのストライキの力に圧倒されて、11月8日の履習届提出期限を延期せざるを得なくなった。この履習届提出の目的は、大学当局、文教授会が、「話し合い」と言っておきながら、札付と一体となって④を学内に導入させて、斗争を圧殺し、そのような反革命的立場を確立して、授業再開=学内正常化路線をほらきさめるための必死の必がきとして存在するのである。それとストライキに突入している我々、及び突入しようとしている諸君に対する文教授会の斗争圧殺的唱喝として存在する。

大学当局、文教授会が④導入、⑤常駐体制に対して何ら口を利かれないばかりか、完全に屈従して「それは、当然である。常駐をとけば全共斗がすぐ封鎖されるではないか」といった反論ばかりの論議を行って、全く正当化している。大学当局、文教授会の「話し合い」とは一体何なのであるのか。④を導入して、常駐させての権力的背景のもとでの話し合いにほかならない。彼らは100万の味方を得ているのである。そのようなものとして、吾等部で設置された「改革討議集会」なるものは果たのたはなかるのか。文教授会内部においても「改革」に関して意見がまとまらずに、右往左往している段階で「いかなる話し合いがでまるといふのか。教授陣もいまだに半数ギリギリしか集まらず、後はストライキを決め止んでいるではないか。そしてそのような「改革討議集会」なるものに当局責任者は一切出席していない。張本人の出席していない場でいかなる話し合いが出来るというのか。④導入、常駐体制を唱える張本人=学長、執行部は否や雲隠れをきめこみ我々の面前に一切現われぬであらう。なおも札付=特攻隊の背後で息をよめている。

我々ストライキに突入している者は、これらの人物が我々の前に現われて、④導入の至道、及びその自己批判をすることを要求する。学長及び執行部は即刻我々の前に出て来い。そして④導入、常駐、授業再開に対して自己批判をせよ!

文学部各クラス、各学科でストライキに起とうとしている諸君!

履習届提出の問題は、自分自身につけられた問題でもあるのだ。それゆえに大学当局が反革命的立場に立って、④導入に倒して何ら自己批判することなく設置した授業再開路線に自らを組み込んで、大学当局の犯罪性を黙認するのみか、それとも、そのような犯罪的路線を断固として拒否するかの、一つの踏線として存在するのである。確かに一年留年もあるかもしれないが、この問題をほらむ履習届提出を、更に自分自身に人々につけられた課題として受けとめ、当局の斗争圧殺的唱喝をけぬけ、履習届提出無期延期=授業再開反対の斗争を組織せよ。各教室代表に無期延期の確約をとりつけよ。ストライキで起せ!

□ 各学科、各クラスは文スト実共斗に結集し、統一ストに合流せよ!

我々、文スト実共斗(準)は11月11日に準備中に行っている全学ストにかかる課題をかかえて合流しようとしている。今や、理工 faculty を中心として新たなる同志層の運動が高まってきた。我々と連帯して、理化学科の諸君も無期ストに突入している。又特筆すべきは工学部院生のハンカーストである。この人の突出した斗争を孤立させることなく、すべての学科、クラスでストライキに起らうとせよ。斗争の輪を拡大せよ! 要求を貫徹して無期ストで闘え!

<スケジュール>

11月11日 文スト実共斗結成集会

12日 教員学生

後、全学統一決起集会に合流

文スト実共斗準

(中口学スト実、口史3回生スト実、独文、仏文有志)

11/10